



NPO法人 ~ともに住み、ともに生きる~
西東京市多文化共生センター

2020(令和2)年度 年間活動の記録

2019(令和元)年度後半分を含む

『多文化のわ』は、NIMICの活動をタイムリーにお伝えする情報誌として、2011(平成23)年に創刊し、2019(令和元)年秋のVol.24まで発行してまいりましたが、このたび、新たに「年間活動記録誌」との位置づけで再スタートを切ることといたしました。本号は、2020(令和2)年度版ですが、前号までに掲載できなかった2019(令和元)年度後半の活動も掲載しています。ご一読いただき、私どもの活動についてご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

目次

表紙

[2019年度]		1
2019. 10. 26	日本語ボランティアフォローアップ講座	
2019. 11. 9, 10	西東京市民まつりに参加	
2019. 12. 1	西東京市日本語スピーチコンテスト2019	
2020. 1. 19	『地元田無のうどんづくり』体験会	2
[2020年度]		
2020. 5.	子ども日本語教室小学部ワンピースデザインコンテスト	
2020. 8. 4	リモート版 多文化サロン 第1回「パリからのゲストと」	
2020. 8. 5	多文化共生センターのレイアウト変更	
2020. 8. 8, 22	日本語ボランティアフォローアップ講座	3
2020. 9. 13	リモート版 多文化サロン 第2回「モンゴルってどんな国？」	
2020. 9. 19, 26	日本語ボランティアフォローアップ講座	
2020. 10. 3	ホームページの刷新	
2020. 10.	NIMIC通信をスマホ仕様に刷新、月に2回の配信に	4
2020. 10. 24	日本語ボランティア情報交換会	
2020. 11. 7	NIMICオンラインカフェ (ゲスト: 中国出身会員)	
2020. 12. 5	NIMICのキャッチフレーズが決定	
2020. 12. 12	NIMICオンラインカフェ (ゲスト: 沖縄出身会員)	5
2020. 12. 19, 20	子ども日本語教室小学部ゲーム大会	
2021. 1. 10	新年二胡ミニコンサート	
2021. 1. 24	外国から来た保護者のための小学校入学前説明会	
2021. 2. 6	多文化共生講座「ヘンクさんが語る、知られざるオランダ」	6
2021. 3. 7	多文化共生講座「この地域に暮らしてみて」	
2021. 3. 19, 21	子ども日本語教室小学部修了式	
2021. 3. 25	子ども日本語教室中学部修了式	

裏表紙

※ 見出しの記号は、活動の柱と事業形態を表しています。

活動の柱は、図形で：

- ⇒「地域在住外国人の支援」
- ⇒「多文化理解の促進と交流」
- △⇒「活動の活性化・ネットワークづくり」

事業形態は、色で：

- 青■⇒「市からの受託事業」
- 黄■⇒「市との共催事業」
- 赤■⇒「NIMICの自主事業」

NIMICの活動記録 2019年度後半

▲ 日本語ボランティアフォローアップ講座 「見て、聞いて、考えるオランダ」

2019. 10. 26 (土) イングビル3F会議室 参加者 17人

西東京市が、オランダのオリンピックのホストタウンだということで、オランダ出身で西東京市在住のヘンク・ヴァン・ランバルゲンさんに、フォトランゲージ手法を使って、オランダの歴史や習慣、食事のことなどたくさん教えていただきました。

「オランダがとても近い国に感じられてうれしかった。」「チューリップ、風車以外のオランダの様子を学ぶことができた。」「ちょうど日本を訪問されていたお母様が差し入れしてくださったソーセージとチョコが美味しかった。」などの感想がありました。

▲ 西東京市民まつりに参加

2019. 11. 9, 10 (土、日) いこいの森公園

ブースを出店し、テント内で簡単なクイズなどを用いて多文化共生の取組みを多くの市民に訴えました。

● 西東京市日本語スピーチコンテスト2019

2019. 12. 1 (日) コール田無 発表者 15人 (うち小学生 3人)
総参加者 190人

日本語を母語としない人が、多様な文化圏からこの町に移り住み、慣れない言語・習慣のこの地域に暮らしていく中で、感じたこと思ったことを自ら日本語で語り、それを聞いた聴衆がその思いを共有するイベントです。

発表者全員に賞が贈られましたが、西東京市長賞は、姜 侑姫さんの「思い出の柳沢、未来へ歩む」
武蔵野大学学長賞は、カマラ ファンタさんの「日本でのからし」

NIMIC賞は、アルバロ ゼビェルスさんの「西東京での日々」が受賞しました。

発表後の審査の時間を利用して、ガーナの太鼓奏者ニテテ・ボーイさんによる太鼓の演奏とその弟さんのダンスを楽しみました。

終了後の交流パーティには、審査員の池澤隆史副市長(当時)、堀井恵子武蔵野大学教授も参加してくださり、発表者と観客、スタッフがスピーチの余韻を楽しみ、交流の輪が広がっていました。



● 『地元田無のうどんづくり』体験会

2020. 1. 19 (日) 田無公民館
外国人参加者 23人、協力JAスタッフ等 11人

市内在住・在学・在職の外国人が4つのグループに分かれ、それぞれに「こねて、のばし、切って、茹でて、試食」を楽しみ、会は大盛況でした。準備から指導、作成に協力して下さった

「JA東京みらい」の代表から「初めてとは思えない程上手に、それも時間内にできて、更に美味しいと喜んでもらえてよかった。」との感想をいただきました。



NIMICの活動記録 2020年度

■ 子ども日本語教室小学部ワンピースデザインコンテスト

		<p>2020. 5 応募者20人、審査参加者32人</p> <p>コロナ禍で小学校も子ども日本語教室もお休みなので、みんなで楽しいことをしたいと、小学部に参加を呼び掛けて、塗り絵風のワンピースデザインコンテストを行いました。子どもと親と指導スタッフから計23作品が集まり、投票の結果、ベストデザイン賞は、子どもの部がチャンマヤさん、大人の部がチャンレイチェルさんの親子が受賞しました。賞品と参加賞はスタッフが手分けして届けました。</p>
--	--	--

● リモート版 多文化サロン 第1回 「パリからのゲストと」

2020. 8. 4 (火) オンライン 参加者 10人

パリ在住8年、オートクチュールの刺繍を扱うアトリエで刺繍家として活躍されている白根実の里さんに、コロナ禍のフランスでの生活の様子、またご自身のお仕事のことなど、たくさんの写真を見せていただきながら、パリのご自宅からお話していただきました。

コロナの対応ひとつにしても日本とフランスの同じ点や違う点など、実際に生活していないとわからないことが、よくわかりました。コロナ禍で、初めてZOOMを使っての開催になりましたが、7時間もの時差のあるパリとの間で楽しいお話しを過ごすことが出来ました。



■ 多文化共生センターレイアウト変更

2020. 8. 5 (水)

「西東京市多文化共生センター」(イングビル1F)の室内レイアウトを変更しました。コロナ感染防止対応で、相談窓口エリアを事務・打合せエリアから隔離するため、すべての什器の配置を見直して、安心安全でより広くすっきりした相談窓口を設置すると同時に、その他のエリアも使い勝手を改善させました。

▲ 日本語ボランティアフォローアップ講座

「コロナ時代の地域活動のために～オンラインツールzoomの活用～」



2020. 8. 8 (土)、8. 22 (土) オンライン 参加者20人

市内の日本語教室のボランティアスタッフを対象に、東海大学教養学部国際学科 非常勤講師でかながわ開発教育センター理事・事務局長の木下理仁さんを講師に迎え、

1日目は「Zoom入門～参加から学習活動へ」で、Zoomを使ってどんなことができるか、

2日目は「Zoomで学習活動と交流活動をファシリテートする」で、ホストとしてZoomをどのように操作するか、注意事項は何か、を学びました。

「おしゃべりを楽しんだり、疑問に思っていることを質問することができ、タイムリーでとても有意義な講座だった」との感想をいただき、今後の活動の新しい形としてZoomの利用が広がっていく可能性が感じられました。

● リモート版 多文化サロン 第2回 「モンゴルってどんな国？」

2020. 9. 13 (日) オンライン 参加者13人

西東京市在住のアリオンザヤーさんとジグメドルジさんご夫妻がパワーポイントを使って、モンゴルの文化、民族、教育など興味深い話をたくさんしてくださいました。

参加者からは「昔からの文化を大切にするモンゴルと現代的なモン

ゴルと知らないことがたくさんありました。」「有意義な時間でした。」「同じような企画があったら参加したいです。」などの感想がありました。



▲ 日本語ボランティアフォローアップ講座

「コロナ時代の地域活動のために～オンラインツールzoomの活用～」



2020. 9. 19 (土) 1回目、2020. 9. 26 (土) 2回目 オンライン 参加者22人

櫻井千穂さん(広島大学准教授、文科省作成のDLA(日本語を母語としない子どもの言語能力測定ツール)の開発者)を講師に迎え、子ども日本語教室スタッフ等を対象に、

「地域活動に活かすDLAの考え方」(1回目)、

「ZOOMでの具体的な学習活動のやり方」(2回目)を、

ビデオで実践例を見るなどして教えていただきました。

「大変参考になった、刺激を受けた」との感想が多く寄せられ、みんなで勉強会をしようという話も出た、今後のスキルアップにつながる講座でした。

▲ ホームページの刷新

2020. 10. 3 (月)

ホームページを見やすく、魅力的にして、より多くの皆さんに訪問していただく工夫をしました。

- ・スマホからでも見やすく
- ・在留外国人の役に立つ、さまざまな生活情報を用意
- ・日本語/英語/中国語/韓国語/やさしいにほんご(ルビつき)のページを用意
- ・今後のイベントスケジュールの確認が可能に
- ・過去2年間のイベント報告を写真つきで掲載
- ・ホームページ上から、入会の申し込み、年会費のクレジット払いが出来るように

▲ NIMIC通信をスマホ仕様に刷新、月に2回の配信に

2020. 10. 3 (月)

2006年のNIMIC設立当初より発行されているメルマガ「NIMIC通信」を刷新しました。スマホで読む人が増え、レイアウトの乱れや、長くて読みにくいという声がある一方で、その長さが好きで、じっくり読むという声もあるので、両立させるために工夫をしました。

- ・月に2回の発行にし、エッセイなど長い文章は振り分ける
- ・短いタイトルでわかりやすく
- ・各種報告やイベントのお知らせは、箇条書きに
- ・短くするためにリード文を省略
- ・レイアウトが乱れないデザインに 等々

▲ 日本語ボランティア情報交換会

2020. 10. 24 (土) オンライン 参加者9人

9月のフォローアップ講座参加者の声を受けて、日本語教室スタッフ同士の情報交換会を開きました。少人数グループに分かれた自由な情報交換で現状を共有したのち、オンラインで教室活動デモを見ました。

「普段お話しするチャンスのない方とお話ができ刺激になった」「慣れない中での参加だったが、他の教室の様子を対面と変わらずに聞くことができた」「ZOOMを活用した指導例も参考になった」などの感想がありました。



● NIMICオンラインカフェ (ゲスト：中国出身会員)



2020. 11. 7 (土) オンライン 参加者6人

NIMICオンラインカフェは、NIMIC会員同士が知り合い、気軽に語り合う交流の場です。中国出身の劉鴻さんをゲストに迎え、子ども日本語教室や通訳ボランティアのお話を伺ったり、少人数に分かれての自由会話を楽しみました。

こじんまりした会だったので、表面の事象の背後にあることや、波及する様々なことについても話ができ、今後の活動を考える上でのヒントもたくさん出てきました。

「ゲストの問題提起もあり、少人数の中で深い話ができ、とてもよかった」「いろいろ個人の考えなども聞くことができてよかった」などの感想が寄せられました。

▲ NIMICキャッチフレーズが決定

2020. 12. 5 (土) 応募13人、24案。投票者40人

NIMICのホームページリニューアルを機に、NIMICのイメージ向上・理解促進を図って、広く会員からキャッチフレーズを募集し、12/5の最終選考会で「**～ともに住み、ともに生きる～**」に決定しました。応募者は全員に、投票者には抽選で、市内の外国人が経営する飲食店のクーポン券を贈呈しました(役員を除く)。

【このキャッチフレーズに込めた想い(HPより)】・・・私たちは皆、それぞれの背景を持ってこの西東京市に住んでいます。「ともに住み」は、自分自身をはじめとして、あらゆる出身・国籍・宗教・人種・民族・世代・性別・障害の有無・社会的地位など多様な人々が、同じ地域にともに隣人として生活している客観的な状況を表現しています。そして「ともに生きる」には、その全ての人がそれぞれの違いを超えて、互いに認め理解し尊重し合い、協力し合って、誰もが楽しくイキイキとより良い人生を生きていける社会を築くとの主体的な決意を込めています。このフレーズが、多くの人びとにとって身近な言葉となり、込められた思いが少しでも多く実現することを願っています。

● NIMICオンラインカフェ（ゲスト：沖縄出身会員）

2020. 12. 12（土） オンライン 参加者12人

沖縄出身のNIMIC会員で、土日プロジェクトや英語通訳ほかで活躍されている鳥袋弘さんをゲストに迎え、沖縄の戦後の後遺症、東京で受けたカルチャーショック、沖縄県人のキャラクターについてお話しくださいました。多様な質問に対して、深い洞察をもとに明快で詳細な説明があり、驚嘆の声が上がっていました。

「まだまだ知らない日本があることを実感した」「文化や価値観の違いと対話について考える機会になった」などの感想がありました。



■ 子ども日本語教室小学部ゲーム大会

2020. 12. 19（土） 向台教室 子ども9人、スタッフ10人

2020. 12. 20（日） 谷戸教室 子ども5人、スタッフ8人

いずれもオンライン



例年、子ども日本語教室の子どもたちとスタッフが集まってゲーム・クイズ・歌を楽しんでいましたが、コロナ禍で開催できなかったため、個別教室ごとにZOOMでゲームやおしゃべりで楽しみました。

どちらの教室も、スタッフの工夫をこらしたゲーム、子どもたちが好きな本や宝物を見せての説明、なぞなぞやジェスチャークイズなどで、楽しい時を過ごしました。

毎週の学習は1対1のオンライン学習なので、みんなで顔を合わせるのは9か月半ぶり、スタッフにとっては、子どもたちの日本語の上達や成長した様子に驚きながらも楽しい1時間半でした。



● 新年二胡ミニコンサート

2021. 1. 10（日） オンライン 参加者9人

楊智二胡楽団の楊 智さん（NIMIC理事）による二胡のミニコンサートをリモートで配信しました。新年にふさわしい中国のお祝いの曲や、コロナ禍でも元気ができるような選曲で、最後の「上を向いて歩こう」はみんなで口ずさむなど、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。コロナ禍でも何か楽しいことをという企画で、会議用の簡単なwebカメラを使い、試行錯誤でのチャレンジでした。少しずつでもレベルアップして、皆さんに楽しんでいただけるような企画を増やしていきたいと思いました。



■ 外国から来た保護者のための小学校入学前説明会

2021. 1. 24（日） オンライン 参加者11人

小学校に入学するお子さんを持つ外国から来た保護者のための説明会です。小学校に入学するために必要なもの、入学までにできるようになっておくこと、連絡帳の書き方、参考図書などを、スライドや実物を見ていただきながら説明・紹介しました。

中国語とやさしい日本語の質問タイムを設定しました。

イベント中、熱心にメモを取られていた参加者もいて、とても求められていたイベントであったと実感しています。



● 多文化共生講座「ヘンクさんが語る、知られざるオランダ」

2021. 2. 6 (土) オンライン 参加者20人

オランダ出身で西東京市在住のヘンク・ヴァン・ランバルゲンさんが、国土の4分の1が海面下であるオランダが水と戦いながらも水を味方につけて国を作ってきたことを、写真や自分の経験を交えながら話してくださいました。たくさんの質問にも答えていただき、最後にはオランダ由来のことばクイズで、オランダ通の市民が増えました。



● 多文化共生講座「この地域に暮らしてみて」

2021. 3. 7 (日) オンライン 参加者18人

近隣に暮らすキルギス、バングラデシュ、アフガニスタン出身の3家族を迎え、日常生活に関する体験談を聞きました。日本が大好きで、特に困ることはないという皆さんでしたが、来日当時の部屋探しの苦労や、ハラルフードのレストランがない状況なども知ることができ、国籍や言語、文化など多様な外国人の方々が地域の一員としてともに暮らすことについて、一緒に考える貴重な時間となりました。



■ 子ども日本語教室「小学部修了式」

2021. 3. 19 (金) 谷戸公民館 卒業生1、修了生2、参加全15人
2021. 3. 21 (日) 多文化共生センターで 卒業生1、他7人と
オンラインで 8人が参加



19日は谷戸教室、21日は向台教室が、感染防止に配慮しながら、スタッフ全員の手作りによる心温まる修了式を行いました。両教室とも、修了者の保護者から子ども日本語教室への心のこもった感謝の言葉をいただき、スタッフの胸にもこみ上げるものがありました。卒業の2人は、中学部でも頑張ってくれることと思います。

■ 子ども日本語教室「中学部修了式」

2021. 3. 25 (木) 田無公民館 修了生1人、在校生5人、他13人

子どもとスタッフが約1年ぶりにほぼ全員が揃い、久しぶりに会えた喜びと、高校進学を決めた修了生を祝う喜びにあふれたひと時でした。

修了証とアルバム授与の後、全員が一言ずつお祝いを言い、修了生が旅立ちのことばを述べました。出席された保護者が涙ぐむ場面や、修了生の励ましに1、2年生がうなずく場面もありました。30分ほどの短い時間でしたが、すばらしい式となりました。



※ NPO法人 西東京市多文化共生センターは、

「ともに住み、ともに生きる」をキャッチフレーズに、異なる背景を持つ人々が、互いの違いを理解し尊重し合って、ともに地域で暮らす「多文化共生」のまちづくりを目指しています。「外国人にとって住みやすいまちは、みんなが住みやすいまち」と考え、外国人支援、交流の場づくり、受け入れる地域社会の啓発活動を行っています。

■ 詳しくは、
ホームページで



市の外国人相談
窓口 西東京市
多文化共生セン
ターを、市からの
委託を受けて運営
しています。



〒188-0012
西東京市南町5-6-18イングビル1F
・西武新宿線田無駅南口徒歩2分
電話/FAX 042-461-0381
【窓口】月曜日～金曜日の
10:00～12:00、13:00～16:00

NIMICの会員になりませんか？

多文化共生活動に取り組んでみたいと思われる方、ぜひ私たちと共に考え、行動してみませんか。あなたのご参加をお待ちしています。

○会員になると

- ・各種イベントに実行委員として参加できます
- ・興味ある活動、新しい活動を始めることが出来ます（理事会承認が必要）
- ・総会での議決権があります
- ・メールマガジン「NIMIC通信」、活動記録誌「多文化のわ」が配布されます

何より 楽しい仲間・親しい友人が増えます！

○会員になるには、「入会申し込み」と「年会費の納入」が必要です。

「入会申し込み」は、ホームページから、または西東京市多文化共生センターまで。

「年会費の納入」は、ホームページから、または新規入会者宛て個別にご連絡します。

年会費： 個人会員 2,000円、学生会員 1,000円、家族会員 3,000円

● SDGs(持続可能な開発目標)への貢献

NIMICは、活動理念に基づき、行政や他団体とのパートナーシップを通じて、地域における外国人生活支援など、異なる文化的背景を持つ人々誰もが、共に地域で快適に暮らせる「多文化共生社会」の実現により、持続可能な開発目標(SDGs)3、4、5、10、11、16、17の達成に貢献することを目指します。



【お知らせ】 会員にならなくても、メールマガジン「NIMIC通信」の配信を受け、タイムリーにイベント情報を得ることが出来ます。右QRコードから、お申込みいただけます。



年間活動記録誌「多文化のわ」2020年度版
2022(令和4)年 3月25日発行

編集・発行

NPO法人西東京市多文化共生センター

〒188-0012 西東京市南町5-6-18
イングビル1F

E-mail: info@nimic.jp

HP: <https://www.nimic.jp/>

FB: www.facebook.com/nimic.nishitokyo

